

主 な 異 常 気 象

災 害 区 分 発 生 日 月	気 象 概 況	雨 量 ・ 震 度 等
<p>平成29年 7月九州 北部豪雨 及び 梅雨前線 豪雨</p> <p>平成29年 6月7日 ～ 7月27日</p>	<p>6月7日から7月27日の期間中、日本付近に停滞した梅雨前線や台風等の影響で、各地で大雨となった。</p> <p>6月19日頃から21日頃にかけては梅雨前線上を低気圧が東に進み、近畿地方の多いところで日降水量が400ミリを超えるなど、西日本を中心に大雨となった。</p> <p>また、6月29日頃から7月6日頃にかけて、梅雨前線の活動が活発となり、台風第3号が日本に上陸し、これらの影響で九州から東北地方で大雨・暴風となった。特に7月5日から6日にかけては活動の活発な梅雨前線が停滞した影響等で、九州北部地方（山口県を含む）の多いところで日降水量が500ミリを超え（平成29年7月九州北部豪雨）、中国地方でも日降水量が300ミリを超えるなど、記録的な大雨となった。</p> <p>その後7月22日頃から23日頃にかけては、梅雨前線が北陸地方から東北地方に停滞し、東北地方の多いところで日降水量が200ミリを超えるなど大雨となった。</p> <p>このほか、6月29日に福岡県で、7月7日に鹿児島県で、7月16日から18日にかけて関東地方で、7月27日に沖縄県で竜巻等の突風が発生した。これらの大雨等の影響で、土砂災害や河川の氾濫、浸水害等が発生し、甚大な被害となった。</p> <p>特に6月30日頃からの梅雨前線による大雨や台風第3号による大雨等では、九州北部地方を中心に土砂災害や河川の氾濫、浸水害等が相次ぎ、死者42名、行方不明者2名の人的被害が生じた。</p> <p>また、7月22日頃からの梅雨前線による大雨では、東北地方を中心に河川の氾濫や浸水害等が発生した。</p>	<p>○日降水量（1日300mm以上）</p> <p><静岡県></p> <p>天城山 326.0mm (6/21)</p> <p><和歌山県></p> <p>西川 423.5mm (6/21)</p> <p><島根県></p> <p>波佐 320.0mm (7/5)</p> <p><福岡県></p> <p>朝倉 516.0mm (7/5)</p> <p><佐賀県></p> <p>白石 310.5mm (7/6)</p> <p><長崎県></p> <p>芦辺 362.5mm (7/6)</p> <p><大分県></p> <p>日田 336.0mm (7/5)</p> <p><鹿児島県></p> <p>屋久島 321.5mm (6/20)</p>
<p>暴風雨 及び豪雨 (台風第18号 及び前線)</p> <p>平成29年 9月13日 ～ 9月18日</p>	<p>台風第18号は、9月13日に非常に強い勢力で宮古島付近を北上し、15日には東シナ海で向きを北東に変え、17日12時頃に鹿児島県垂水市付近に上陸した。その後、台風は高知県や兵庫県に再上陸して、18日3時に佐渡島付近で温帯低気圧となった。この低気圧は、速度を上げながら北北東に進み、19日にはオホーツク海を北上した。</p> <p>台風第18号及び台風から変わった温帯低気圧、日本付近に停滞した前線の影響で全国的に大雨となり、特に、沖縄地方や九州の多いところでは、降り始めからの降水量が500ミリを超える大雨となった。また、沖縄・奄美や西日本では風速30メートルを超える猛烈な風を観測したところがあり、沖縄から北海道に至る広い範囲で風速20メートル以上の非常に強い風を観測した。このほか、9月14日に秋田県で、9月17日に宮崎県や高知県で竜巻等の突風が発生した。</p> <p>この影響で、大分県をはじめ西日本を中心に河川の氾濫や浸水害、土砂災害等が発生し、死者5名の人的被害が発生した。住家の浸水や公共施設、農地等への被害があったほか、停電や電話の不通、水道などライフラインへの被害が発生した。さらに、道路の通行止めや鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。</p>	<p>○日降水量（1日300mm以上）</p> <p><愛媛県></p> <p>成就社 354.5mm (9/17)</p> <p><高知県></p> <p>鳥形山 457.5mm (9/17)</p> <p><大分県></p> <p>臼杵 379.0mm (9/17)</p> <p><宮崎県></p> <p>田野 328.0mm (9/16)</p> <p>神門 372.5mm (9/17)</p> <p><沖縄県></p> <p>城辺 494.0mm (9/13)</p>

○出典：平成29年度災害時自然現象報告書（気象庁）

